

日本文化宣教協力会 ニュース

発行：日本文化宣教協力会事務局
2015年6月14日発行 第5号

Vol.5



巻頭言 ～「怒りを抱きしめるイエス」～

日本文化宣教協力会
主幹伝道者 高橋敏夫

今年度前期のセミナーとして、「京都セミナー」が開催された。

京都の和菓子伝統文化を守っている旧とらや本店で、19名が集まり、まずオリエンテーションを行う。

そして山崎の妙喜庵、茶室国宝待庵を見学する。これは利休が作ったと言われる二畳の茶室である。

次に、溝部脩カトリック司教が青年のために開いている望洋庵を訪問。中世のイエズス会宣教師は、日本人にどのような霊的指導を行い、殉教者が起こされるほどの教会教育はどのようなものであったかの講義を受け、のちに霊操の実体験をし、カトリックのミサ（聖体拝領）の経験をさせていただいた。

最後に大友宗麟の菩提寺である大徳寺瑞峯院を訪問。瑞峯院は、禅宗の信者として熱心であった大友宗麟が建てた寺であり、人生最大の選択が迫られたとき、彼は禅宗を捨てた。そして洗礼を受けた。キリシタン大名であることを記念して、寺には十字架の枯山水の庭園が設えてある。そこの前田昌道老師は、長年のつきあいがあり、法話を聞き、座禅の体験をし、茶のもてなしを受け、そして平成待庵二畳だたみの茶室の体験をする。

福音は、変わらないみことばイエス・キリストであり、文化は、人間の営みの中で生まれる、光と闇が共存するこの世界のありようといえる。その文化のただ中に、神であるイエスが来られた。すなわち、人々のいづく怒りの中に、キリストとして来られた。これが、教会にゆだねられた福音である。

イエスは、神ご自身としての怒りと、人の罪の表現ともいえる怒りを、ご自身の心に抱きしめて、「あなたがた

を休ませてあげます」と言われた。人の怒りは、さばくことしかできない自己主張である。それに対して、イエスは「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」（マタイ9:13）と言われ、ご自身の心の庭に憩えと私たちを招かれている。この深く広い園庭こそ、教会が作り上げていくべき文化と言えよう。

五月上旬、函館元町にある十字街の四つの教会を訪問した。ハリストス正教会、英国聖公会、カトリック教会、日本キリスト教団函館教会である。いずれも、明治の初頭に宣教が開始され、献堂された教会である。一箇所に宣教開始と同時に建立された教会が存在していて、しかも、観光の名所となっている例は、非常に珍しい。教団の牧師先生とのお交わりの中で、私の思いを熱く語らせていただき、「分裂ではなく、教会が一つになる新しい宗教改革」がこの函館の元町から始められたら、と祈りを新たにしたことである。



望洋庵にて

高橋敏夫先生をお招きして

池田 豊 藤井寺キリスト教会牧師

藤井寺キリスト教会では、4月19日、終日礼拝説教者として、また、午後2時からの「日本文化とキリスト教セミナー」特別講師として、春日部福音自由教会名誉牧師、日本文化宣教協力会主幹伝道者の高橋敏夫先生をお招きしました。礼拝では、使徒の働き2章40～47節より、「好意を持たれる教会」というテーマで、御言葉よりお語り頂きました。富士山のように高い山は、裾野が広いというたとえから、地方教会は、地域の方々に好意を持たれるべく、御霊の導きのもと配慮がなされるべきことを教えていただきました。出会った近隣の方々が必ずしも信仰決心をすぐにはなさなくても、教会のあり方や活動に行方を添って頂けるならば、その方々は好意を持ってくだ

さる方、協力者となってくださることを、春日部福音自由教会でのご経験より、お語りいただきました。教会員の内の一人が、高橋先生のご経歴を聞いて、まさかという反応を示しました。この信徒は、高橋先生がHi-B.A.のスタッフでいらっちゃった頃、今から50年ほど前、彼女が高校生だった時に高橋先生にお会いしていたかもしれないと言ったのです。淡輪で開かれた、Hi-B.A.関西での第一回高校生キャンプにこの方は出席していたと言うのです。その時の講師が、東京からいらした高橋敏夫先生でした。ご本人たちも、昔のことで、互いに顔は覚えておられないそうですが、そのキャンプの日に、主がなされた御業だけは、鮮明に記憶しておられるとのことでした。午後のセミナーの主題は、「中世の堺で起きたこと」でした。藤井寺のすぐ西に堺がありますので、戦国時代、西洋からローマカトリックの宣教がなされた頃の堺の様子を興味深く語っていただきました。主に感謝いたします。

日本文化宣教協力会 会計報告

自 2014年8月1日 ～ 至 2015年4月30日

収入の部	支出の部
繰越金 239,004円	事務費 1,862円
献金 897,000円	通信費 8,200円
特別支援献金 226,300円	特別支援金 226,300円
受取謝礼 20,000円	研修費 180,000円
受取利息 82円	奉仕活動費 127,055円
	宿泊費 12,285円
	冊子印刷費 41,040円
	繰越金 785,644円
合計 1,382,386円	合計 1,382,386円

備考：
①研修費@20,000円/月（9か月分）
②日本バプテスト横浜教会奉仕（2014年11月16日）
③藤井寺キリスト教会奉仕（2015年4月19日）
④京都セミナー奉仕（2015年4月20日～21日）

日本文化宣教協力会ニュースを、今後はEメールにてお届けしたいと考えています。メールでの配信を希望される方は、協力会事務局までお知らせください。

く、独自の資料と観点を加えて新しい学びの資料を作る賜物を持っておられることを知ったのは、感謝なことであった。これからお付き合いのほど、よろしくお祈りしますね。（Y）



堺市のザビエル公園（戎公園）
日比屋了慶の屋敷跡に建てられている。了慶はザビエルなどの宣教師たちを屋敷でもてなし、交わりを通して家族がキリスト者となった。利休や今井宗久、小西行長の屋敷は、この近くにあった。

サポートのお願い

当協力は、本会の趣旨に賛同する方々の祈りと献金によって支えられ、運営されております。ご支援いただけます方は、同封の振込用紙、または専用の封筒をご利用くださり、お献げいただきたいと存じます。

日本文化宣教協力会事務局
〒344-0067
埼玉県春日部市中央1-5-1-7
春日部福音自由教会内
Tel 048-735-4765
Fax 048-735-4726
Eメール y-gospel@tcatt.ne.jp

郵便振替
ゆうちょ銀行春日部店
口座番号 00140-9-394018
加入者名 日本文化宣教協力会

編集後記

「百聞は一見に如かず」とはよく言われる。キリスト教界においては、交わりをもって初めて他の宗派のことを知らなかったこと、まして他宗教となると、大いに誤解していた、あるいは偏見を持っていた、ということに気付かされる。本協力の目指していることの一つは、キリスト者の目や耳が開かれ、何よりも心が開かれて、違いを理解しつつ、主にあって一つになりこの国に福音を宣教することである。第5号は、京都セミナーに参加された方々の声を掲載させていただいたが、参加者はこのことをからだで感じる事ができたと思う。また、昨年高橋敏夫師を招いてくださった横浜教会は、広島土砂災害の折に被災された広島平和キリスト教会と同じ群れであり、現地ボランティアに駆けつけてくださった。福音自由の姉妹たちと、出会っていたかもしれない。また二日間にわたる交わりを通して、お互いのことを新たに発見することができたのも、祝福されたおまけであった。私にとっては、堺まで一緒に旅をしたM牧師が、講演をそのまままとめるだけでな